

第37回 全国豊かな海づくり大会～福岡大会～

「育もう 海人 地域 みんなの未来」をテーマに
平成29年10月28日、29日に福岡県で開催

◆開催の意義

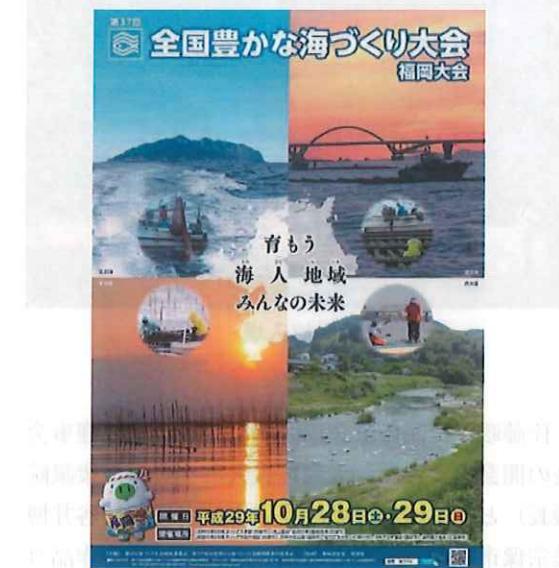
全国豊かな海づくり大会は、水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川の環境保全の大切さを広く発信するとともに、水産業の振興と発展を図ることを目的に、天皇皇后両陛下の御臨席のもと実施される国民的行事である。

本年度は、福岡県において「第37回全国豊かな海づくり大会 福岡大会」が開催された。

福岡県は、温暖な気候で、三方を筑前海、有明海、豊前海の特徴ある海に囲まれ、筑後川、遠賀川、矢部川などの河川沿いに広がる肥沃な平野から、筑紫山地、筑肥山地、耳納山地などの山地まで変化に富む地形を有し、自然環境に恵まれている。

水産業では、日本海南西部に位置し対馬暖流の影響を受ける外海の筑前海、広大な干潟を有する内湾の有明海、瀬戸内海西部に位置し穏やかな内海の豊前海の3つの海と筑後川、矢部川などの内水面において、各水域の特性を活かした多種多様な漁業が営まれており、タイ、フグ、養殖ノリなどは全国で有数の生産量を誇っている。しかし、水産資源の減少、魚価の低迷、消費者の「魚離れ」、漁業就業者の減少など、水産業を取り巻く状況は厳しい状況にあり、資源管理型漁業や栽培漁業を推進するとともに、漁場環境保全、水産物の消費拡大などに取り組んでいる。

こうしたなか、福岡県での「全国豊かな海づくり大会」の開催は、水産資源の保護・管理、つくり育てる漁業を一層進める契機となるとともに、豊かな海づくりに欠かせない海や河川、水源地域の環境保全に対する県民の意識向上につながり、さらに、福岡県が誇る水産物を大会を通じて、県内外に発信・PRすることで、県内漁業者の意欲を更に高め、本県水産業の振興・発展に大きく寄与するものとなった。



大会公式ポスター

◆式典行事

10月29日（日）、宗像市の宗像ユリックス本館「イベントホール」を会場に、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、全国各地からの招待者など1,191名が参加し、式典行事を開催した。

プロローグでは、「4つの水辺の物語」をテーマとして、特徴ある3つの海と内水面で営まれる多種多様な福岡県の漁業について映像と個性豊かなパフォーマンスで紹介した。



プロローグ「めぐみの筑前海」(和太鼓演奏)

式典では、開会に先立ち、平成29年7月に発生した九州北部豪雨災害で犠牲になられた方々に対し、黙祷を捧げた。その後、玄海ゆりの樹幼稚園の鼓笛の先導により、県立水産高等学校の旗手団による大会旗入場で幕を開けた。



大会旗入場

佐藤政俊福岡県漁業協同組合連合会代表理事会长の開会のことば、大島理森大会会長（前衆議院議長）と小川洋福岡県知事の主催者挨拶、谷井博美宗像市長の歓迎のことば、功績団体及び作品コンクール受賞者代表の表彰に続き、作文コンクールで大会会長賞を受賞した野田光輝君（宗像市立東郷小学校2年）による作文「ぼくのたいせつな海や川」の発表が行われた。



最優秀作文発表

次に、天皇皇后両陛下から漁業関係者へクロアワビ、ノリ、アサリ、オイカワの稚魚等のお手渡しが行われた。

続いて、豊かな海づくり活動に取り組む子どもたちと、各海区の若手漁業者夫妻が、福岡の豊かな海を将来に引き継いでいく思いを“福岡海づくりメッセージ”として力強く発信した。



稚魚等のお手渡し



福岡海づくりメッセージ発表

岸宏豊かな海づくり大会推進委員会会長（全国漁業協同組合連合会代表理事長）が読み上げた大会決議を満場の拍手で採択し、大会旗を小川知事から、次期開催県の尾崎正直高知県知事に引継ぎ、樋口明福岡県議会議長の閉会のことばで式典は幕を閉じた。

◆海上歓迎・放流行事

式典行事に引き続き宗像市の鐘崎漁港で予定していた海上歓迎・放流行事は、台風による荒天のため中止となった。

予定では、県立玄界高等学校が作成したオリジナル曲をバックに、宗像漁業協同組合所属約100隻の漁船が航行し、県内外の招待者を歓迎することとなっていた。その後、漁船8隻と、県漁業調査取締船「つくし」で福岡県の代表的な漁業を紹介し、最後に御放流魚の放流をする予定としていた。



海上パレード（2か月前リハーサルの様子）

放流行事が中止となったため、11月27日には鐘崎漁港で、12月12日には地島漁港で、地元児童、漁業者等で大会当日に放流予定だったトラフグ・マダイ稚魚を放流した。



大会会場予定地（鐘崎漁港）での放流

◆絵画・習字コンクール優秀作品御覧

10月28日（土）、歓迎レセプションに先立ち、北九州市小倉北区のリーガロイヤルホテル小倉において大会開催を記念して実施した絵画・習字コンクールの優秀作品を展示し、天皇皇后両陛下に御覧いただき、受賞者の子ども達にお声をかけていただいた。

ンクールの優秀作品を展示し、天皇皇后両陛下に御覧いただき、受賞者の子ども達にお声をかけていただいた。



◆絵画・習字コンクール優秀作品の展示
（北九州市小倉北区のリーガロイヤルホテル小倉）

◆歓迎レセプション 同日、リーガロイヤルホテル小倉での歓迎レセプションでは、天皇皇后両陛下御臨席のもと、県内外の大会関係者や功績団体表彰受賞者など267人が参加し、豊かな福岡の食でおもてなしとともに、両陛下には、県内漁業関係者等と親しく御懇談いただいた。



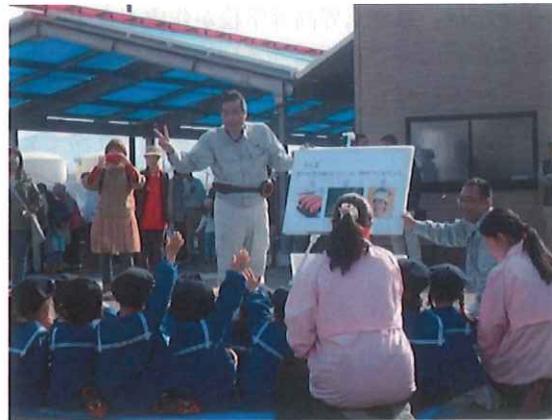
歓迎レセプション

◆関連行事

10月28日（土）、29日（日）に大会行事の一環として、県内5会場で関連行事を実施。福岡県の水産業や大会についての企画展示や、福岡県の海の幸が一つの会場で味わえる「ふくおか海の幸グランプリ」のほか、県産農林水産物を使用したメニューの販売などを行った。



「ふくおか海の幸グランプリ」の様子



放流魚に関するミニ講座

◆開催のあゆみ（リレー放流）

大会に向けた機運を高めるとともに、豊かな海づくりへの意識向上や水産業に対する理解促進を図るため、県内漁業協同組合、市町の協力のもと、児童等による稚魚の放流を1年前記念イベント「豊かな海づくりフェスタ」を皮切りに県内各地でリレー方式で19回実施した。



稚魚等の放流



「伝えたい！」プロジェクトパネル

大會決議

我が国は、四方を囲う海からの恵みによって、古(いにしえ)より多様で優れた食文化を享受してきた。

ここ福岡県は、筑前海、有明海、豊前海の三つの海と、筑後川、矢部川などの内水面において多種多様な漁業が営まれ、地域産業の発展や伝統文化の継承に重要な役割を担ってきた。

私達には、「豊かな海」というかけがえのない財産を、将来に引き継ぐ重要な責務がある。

本年は、ここ福岡県において、

「育もう 海人 地域 みんなの未来」
をテーマに、新たな決意を持って、水産資源の維持・管理と、環境・生態系の保全に努めていくことをここに決議する。

平成29年10月29日

第37回全国豊かな海づくり大会

(福岡県農林水産部水産局漁業管理課全国豊かな海づくり大会推進室)